

研究番号 1223号 承認日 2020年8月21日

研究実施予定期間 承認日～2022年9月30日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	B型慢性肝疾患患者における免疫細胞応答の解明	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	本臨床研究は、B型慢性肝疾患患者の免疫反応における自然免疫応答の役割や意義を解明する臨床研究である。B型慢性肝疾患はB型肝炎ウイルス(HBV)感染により生じる病態である。HBVがヒトに感染すると肝細胞に侵入しウイルスが増殖する。感染したHBVが生体の免疫機構に認識されれば、HBVの排除を目的として免疫反応が起こる。しかしながらHBVに対する免疫反応において、各自然免疫細胞の役割については、いまだ詳細は不明である。本研究の目的は、B型慢性肝疾患で起こる自然免疫応答の意義を明らかにすることである。B型慢性肝疾患患者と健康人における末梢血単核球(PBMC)中の各自然免疫細胞の頻度解析や血清タンパク質濃度の違いなどを比較する目的で、B型慢性肝疾患患者と健康人のPBMCと血清を各々収集する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	巽 智秀・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・講師	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	宮崎昌典・消化器内科・副部長	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	〈介入について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント)について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要
	〈試料・情報の利用について〉 <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	実施承認後 ～ 西暦 2022年 9月 30日	
7. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: <u>消化器内科</u> 担当者: (氏名) <u>宮崎昌典</u> (職名) <u>副部長</u> 連絡先: 06-6771-6051 (内線: )	

研究番号 1222号 承認日 2020年8月21日

研究実施予定期間 承認日～2025年4月30日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	肝性腹水に対するトルバプタン導入症例の多施設共同前向き研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合 には品名と一般名も記載)	肝硬変患者の腹水治療にトルバプタン(製品名:サムスカ®)は広く使用されている。治療効果や予後改善効果についての多くの検討が行われてきたが、トルバプタンの治療反応性予測因子、肝予備能や腎機能への影響、レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系や筋肉への影響を前向きに検討した報告は少ない。これらを前向きに検討しトルバプタン治療と予後との関連性を明らかにすることが課題である。 本研究では、大阪大学ならびに共同研究機関においてトルバプタン導入の適応となった肝性腹水、肝性浮腫患者を前向きにデータベースに登録し、トルバプタン導入前の背景因子(血液検査および理学所見)、導入後の治療反応性、肝予備能、腎機能、筋肉量、こむら返りの頻度・程度、導入前後のレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系マーカーやマイオカインの変化、肝細胞癌(以下 HCC)発生、生存期間などのデータを収集することでトルバプタン治療の腹水以外への影響や予後との関連性を検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀・消化器内科・副院長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	〈介入について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント)について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要
	〈試料・情報の利用について〉 <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	実施承認後 ～ 西暦 2025年 4月 30日	
7. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: <u>消化器内科</u> 担当者: <u>(氏名) 宮崎昌典</u> (職名) <u>副部長</u> 連絡先: 06-6771-6051 (内線: )	

研究番号 1189号 承認日 2020年5月15日

研究実施予定期間 承認日～2021年12月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合 には品名と一般名も記載)	日本消化器内視鏡学会の主導で過去に消化器内視鏡に関連した偶発症の全国調査が6回行われてきたが、今回の調査では調査期間を短く1週間に設定した前方視的調査、ならびに、任意に設定した調査期間の3年以内に起こった重症症例を後方視的に調査する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	入澤 篤志・医療安全委員会・理事・日本消化器内視鏡学会	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・内科/消化器内視鏡センター・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: _____ 内科 担当者: (氏名) 柄川 悟志 (職名) 部長 連絡先: 06-6771-6051 (内線: _____ )  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 1166号 承認日 2020年3月10日

研究実施予定期間 承認日～2022年12月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	本研究(事業)は、日本全国の内視鏡関連手技・治療情報を登録し、集計・分析することで医療の質の向上に役立て、患者に最善の医療を提供することを目指す研究である。この様な内視鏡関連手技の全国規模の情報収集は初めてのところみであり、患者側だけでなく、医療を提供する側にも大きな利益をもたらすものである	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	統括責任者：日本消化器内視鏡学会 Japan Endoscopy Database (JED) Project 委員長 田中 聖人 (兼、データ管理者) 研究事務局：日本消化器内視鏡学会 事務局 東京都千代田区神駿河台 3丁目 2番 1号 新御茶ノ水アーバントリニティビル 4階 TEL：03 -3525 -4670 FAX：03 -3525 -4677 4677	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・消化器内科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント)について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 10年(提供先の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について： ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>消化器内科</u> 担当者：(氏名) <u>柄川 悟志</u> (職名) <u>部長</u> 連絡先：06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 1100号 承認日 2019年10月8日

研究実施予定期間 承認日～2020年12月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	門脈血栓症に対する血栓溶解療法の治療効果についての検討—多施設共同研究—	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	門脈血栓症は慢性肝疾患、特に肝硬変患者において0.6-26%に見られ、肝硬変の進行に伴い、増加傾向となる。その発症は肝硬変の予後不良因子となり、肝硬変に伴う重要な合併症の一つとされている。 しかし、その治療法、特に血栓溶解療法については、保険収載された治療薬が限られており、いまだに標準治療が確立されていない。 また血栓溶解療法を実施後の無投薬経過観察では、約40%の症例で血栓の再発が認められることが報告されており、血栓溶解療法を実施後に維持療法を行うことが推奨されているが、維持療法が必要な症例の判断基準や、維持療法の再発抑制効果、有害事象の頻度、投与中止基準などについて明確な指針はなく、症例の集積が必要となっている。 本研究では、門脈血栓症と診断され、血栓溶解療法を実施した症例を後方視的に解析・検討することにより、血栓溶解療法の効果や再発率、維持療法の有効性、有害事象などを検討し、門脈血栓症に対する現状の治療成績について、明らかにすることを目的とした。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 ・ 消化器内科 ・ 副院長 ・ 大阪警察病院	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	宮崎昌典 ・ 消化器内科 ・ 副部長 ・ 大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	〈介入について〉 <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉 <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 ・ モニタリング実施者 ( ) ・ 監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科: <u>消化器内科</u> 担当者: (氏名) <u>宮崎 昌典</u> (職名) <u>副部長</u> 連絡先: 06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者	

	さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	--



### 情報公開文書

1. 研究課題名	内視鏡的大腸粘膜切除術における新しい検体回収方法の検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	<p>大腸ポリープの内視鏡的切除において、切除検体の吸引回収時に分裂が生じると病理学的評価に支障を来す。</p> <p>元来小ポリープの回収は鉗子口に切除されたポリープを近づけて吸引ボタンを押すだけの方法で回収されていた。Waterslider法は、まず鉗子孔内に少しだけ吸引したポリープを、副送水チャンネルで送水するなどした「十分量の水と共に」、「吸引ボタンをしっかりと押し込んで」回収する簡便な方法である。2018年12月から2019年1月の下部内視鏡検査において、切除した大腸ポリープ病変を回収する際、本方法で回収した検体の分裂率は6.3%であり、これまでの通常吸引法群の37.3%に比し、回収時の検体分裂を防ぐことができた。</p> <p>今回、Waterslider法の検体回収時の検体分裂を防ぐことを、前向き研究により証明する。症例の割りふりは週替わりで行う。</p>	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	嶋吉章紀 内科副医長	
5. 研究の分類	<p>〈侵襲性について〉</p> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<p>〈共同研究の有無について〉</p> <input type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input checked="" type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<p>〈介入について〉</p> <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<p>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉</p> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<p>〈試料・情報の利用について〉</p> <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) <b>【保存年数】</b> <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<p>〈モニタリングと監査について〉</p> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<p>〈対応表の作成の有無について〉</p> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について：得られたデータはエクセルにて管理するが、患者の特定につながる情報は除いて作成する。データの流出・紛失のないように最大限の注意を払い、研究発表の際も個人情報は一切明らかとしない。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<p><b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b>          大阪警察病院          大阪市天王寺区北山町 10-31          診療科： <u>消化器内科</u>          担当者： (氏名) <u>嶋吉 章紀</u> (職名) <u>副医長</u>          連絡先： 06-6771-6051</p> <p>※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究</p>	

	対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	---



研究番号 1003号 承認日 2019年3月12日

研究実施予定期間 承認日～2023年7月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	肝細胞癌に対する薬物療法施行症例の多施設共同前向き観察研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合 には品名と一般名も記載)	分子標的治療薬は進行肝細胞癌に対する標準治療の一つであるが、どのような症例に対して有効であるのかは未だ明らかではない。今日までにソラフェニブを用いた治療効果予測因子・予後因子について多数の検討が行われてきたが、いずれの報告も大規模に前向きに検討したものではなく、現時点では薬物療法において科学的根拠のある治療効果予測因子は明らかではなく、多数例での前向き検討により、肝細胞癌に対する薬物療法の治療効果予測因子を明らかにすることが課題である。 今回、肝細胞癌に対する薬物療法の治療効果予測因子として血液学的あるいは組織学的に有効なバイオマーカーを明らかにすることを目的として、大阪大学を含む関連施設において、全身化学療法の適応となった肝細胞癌患者全症例を前向きにデータベースに登録し、薬物療法開始前の背景因子（血液学的及び組織学的）、抗腫瘍効果、長期予後を検討する	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	〈介入について〉 <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究（観察研究）	〈インフォームド・コンセント（アセント）について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 新規（取得試料・情報の利用） <input type="checkbox"/> 既存（取得試料・情報の利用） <input type="checkbox"/> 既存（残余検体の利用） 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年（提供元の場合） <input type="checkbox"/> 5年（提供先の場合）	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 （ ） ・監査実施者 （ ） <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> あり （具体的な管理方法について：研究対象者のデータや検体から氏名等の特定の個人を識別することができることとなる記述等を削り、代わりに新しく番号をつけて匿名化を行う。この番号を用い、データを提供する） <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	当院で肝がんの全身薬物療法を受けられた方	
7. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>          </u> 消化器内科	

	<p>担当者： <u>尾下正秀</u> (職名) <u>副院長・内科部長</u> 連絡先：06-6771-6051</p> <p>※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>
--	--

研究番号 994号 承認日 2019年3月12日

研究実施予定期間 承認日～2021年3月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	早期胃癌内視鏡治療後の異時性多発癌に対するヘリコバクター・ピロリ除菌の長期的発癌抑制効果に関する多施設共同後ろ向きコホート研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	早期胃癌内視鏡治療後は、残された胃の別部位に一定期間をおいてから発生する異時性多発癌が問題となる。2010年に「内視鏡治療後胃」が <i>H. pylori</i> 除菌療法の適応として保険収載されたが、除菌後も胃癌は少なからず発生する。大阪大学及び関連11施設が2013年にGut誌に報告した後ろ向きコホート研究では <i>H. pylori</i> 除菌の有無により内視鏡治療後の異時性多発癌の発生に差は見られなかった。一方、2018年に韓国より2つの前向きランダム化比較試験(RCT)の結果が報告され、どちらも <i>H. pylori</i> 除菌は内視鏡治療後の異時性多発癌を「抑制する」という結果であった。注目すべきはその両報告の観察期間の中央値が6年とわれわれの報告(2年)よりも長いことである。現在日本から <i>H. pylori</i> 除菌による異時性多発癌の発生抑制効果に関して、観察期間中央値が5年を超える報告は存在しない。日本と韓国では内視鏡での早期胃癌発見技術に違いがあると推察され、今回の韓国のRCTの結果がそのまま本邦でも適用できるかは慎重に判断すべきである。そこで、前述のわれわれのコホートの観察期間を延長して日本での <i>H. pylori</i> 除菌後の長期的な異時性多発癌発生の実態を明らかにする必要があると考えた。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・内科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント(アセント)について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> あり(具体的な管理方法について:研究実施に係るデータを取扱う際は、被験者の秘密保護に十分配慮する。研究事務局に提出するデータは、氏名、各施設のID番号などの個人を特定し得る情報は削除し、本研究固有の症例番号と各施設でのIDは各施設にて匿名化を実施する。対応表は各施設で鍵のついたキャビネットまたはパスワードを設定した電子ファイルで保管する。研究の結果を公表する際は、研究の目的以外に得られた被験者のデータを使用しない。)	

	<p>また、物理的安全管理（データ管理 PC は大阪大学消化器内科学研究室内の保管庫にて鍵をかけて保管、記録媒体の持ち出し禁止等、盗難等・漏えい等の防止、個人データの削除及び機器、電子媒体等の廃棄）、技術的安全管理（データ管理 PC へのアクセス制御、外部からの不正アクセス等の防止に対して不正ソフトウェア対策）、組織的安全管理（個人情報の取扱いの制限と権限を個人情報管理者に限定する）、人的安全管理（定期的に教育を受ける）を行う。） <input type="checkbox"/>なし</p>
<p>6. 連絡先</p>	<p><b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b>  大阪警察病院  大阪市天王寺区北山町 10-31  診療科： <u>          消化器内科          </u>  担当者： <u>          (氏名) 柄川 悟志          </u> <u>          (職名) 部長          </u>  連絡先： 06-6771-6051</p> <p>本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者もしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とせないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

### 情報公開文書

<p>1. 研究課題名</p>	<p>抗凝固薬内服者における大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) 後出血に関する多施設共同後ろ向き研究</p>	
<p>2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)</p>	<p>大腸腫瘍に対する ESD は高い一括切除率を有し低侵襲であることより、日本において保険収載され大きな表在性の大腸腫瘍に対して広く行われている<sup>1)</sup>。ESD の主要な偶発症の一つとして後出血があげられる。過去の報告において大腸 ESD における後出血は報告によって差があるが 1-5%程度の報告が多い<sup>2-5)</sup>。</p> <p>近年、高齢化社会の進展により抗凝固療法をうける患者が増加してきている。抗凝固療法を受けている患者の抗凝固薬休薬に伴う血栓塞栓症は一度発症すると重篤なことが多い。消化器内視鏡処置におけるワーファリン休薬により約 1%で脳卒中を発症したとする報告がある<sup>6)</sup>。そのためできるだけ短期間の抗凝固薬休薬が望まれるが、短期間の休薬では出血リスクが増加することが想定される。</p> <p>同じ大腸腫瘍切除方法である大腸 EMR/polypectomy において抗凝固薬内服例は術後出血が高率であるとの報告が以前より多くなされている。<sup>7)8)9)</sup></p> <p>一方、大腸 ESD における抗凝固薬内服例は後出血が高率との報告が数報存在するがいずれも単施設の少数例の検討である。<sup>10)11)12)</sup>そこで、今回大阪大学医学部附属病院およびその関連施設において大腸腫瘍に対して ESD を施行した症例のうち抗凝固薬内服者における後出血の詳細について検討することを目的として研究を立案した。</p> <p>大阪大学医学部附属病院およびその関連施設 14 施設において 2012 年 4 月から 2017 年 12 月の期間に大腸腫瘍 (カルチノイドは除く) に対して ESD を施行した症例のうち抗凝固薬内服症例について、患者背景、病変背景などの情報と後出血の有無との関連を検討する。</p>	
<p>3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関</p>	<p>竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科消化器内科学・教授</p>	
<p>4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関</p>	<p>柄川 悟志・内科・部長・大阪警察病院</p>	
<p>5. 研究の分類</p>	<p>〈侵襲性について〉  <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究  <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究  <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究</p>	<p>〈共同研究の有無について〉  <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究  <input type="checkbox"/> 当院のみの研究  <input type="checkbox"/> その他 ( )</p>
	<p>〈介入について〉  <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究  <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)</p>	<p>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉  <input type="checkbox"/> 必要  <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト</p>
	<p>〈試料・情報の利用について〉  <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用)  <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用)  <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用)  <b>【保存年数】</b>  <input type="checkbox"/> 3 年 (提供元の場合)  <input checked="" type="checkbox"/> 5 年 (提供先の場合)</p>	<p>〈モニタリングと監査について〉  <input type="checkbox"/> 必要                  ・モニタリング実施者                  ( )                  ・監査実施者                  ( )  <input checked="" type="checkbox"/> 不要</p>

	<p>〈対応表の作成の有無について〉</p> <p>■あり（具体的な管理方法について：研究代表者等が本研究で得られた情報を公開する際には、被験者が特定できないよう十分に配慮する。症例ごとに整理番号を定め、当施設責任者は患者照合が可能な識別対応表を厳重に管理する。患者 ID (カルテ番号)、生年月日、イニシャルは調査シートには記載しない。当施設と研究事務局の間で調査シートの移送が必要となるが、その場合も不正アクセスが行われないう、データファイルにパスワードを設定する措置をとった上で移送する。本研究で発生する資料（調査シート）は大阪大学消化器内科教室内のネットワークに接続されていないコンピューター上に管理される。）</p> <p><input type="checkbox"/>なし</p>
6. 連絡先	<p>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</p> <p>大阪警察病院  大阪市天王寺区北山町 10-31  診療科： <u>消化器内科</u>  担当者：(氏名) <u>柄川 悟志</u> (職名) <u>部長</u>  連絡先：06-6771-6051</p> <p>本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>

研究番号 992号 承認日 2019年3月12日  
 研究実施予定期間 承認日～2023年12月31日

### 情報公開文書

1. 研究課題名	初発肝癌の特徴の経時的推移の検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	初発肝癌の背景肝疾患はウイルス性から非ウイルス性やウイルス制御下へと変貌しており、発症リスク患者の囲い込みにおいても変化が求められている。本研究では、初発肝癌の背景肝疾患などの特徴の経時的推移を明らかにすることを目的とする。この本研究成果により肝癌発症リスクを有する患者を絞り込み、肝発癌の早期診断につながることを期待できる。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント)について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について：研究対象者のデータから氏名等の特定の個人を識別することができることとなる記述等を削り、代わりに新しく番号をつけて匿名化を行う。この番号を用い、データを提供する) <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	初発肝癌患者	
7. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>消化器内科</u> 担当者： <u>尾下正秀</u> (職名) <u>副院長・内科部長</u> 連絡先： 06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	



研究番号 991号 承認日 2019年3月12日  
 研究実施予定期間 承認日～2020年12月31日

### 情報公開文書

1. 研究課題名	ペグインターフェロン・リバビリン併用療法後の予後についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合 には品名と一般名も記載)	C型肝炎ウイルスの持続感染により、慢性肝炎から肝硬変、肝細胞癌といった致命的な病態に至るが、インターフェロンを用いた抗ウイルス療法によるC型肝炎ウイルス排除によって肝細胞癌の発症が低下する。しかし、C型肝炎ウイルス排除後に肝細胞癌を発症する症例や、また、ウイルス排除後に肝疾患が進展する症例が少なからず存在する。そのような、C型肝炎ウイルス排除後に肝疾患が進展する症例の特徴を明らかにする必要がある。本研究では、ペグインターフェロン・リバビリン併用療法を行ったC型慢性肝疾患患者を対象とし、肝細胞癌の発生や肝線維化進展を含む予後に関連する因子を明らかにすることを目的として、同療法が施行された患者群の予後を前向きに検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント)について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> モニタリング実施者 ( ) <input type="checkbox"/> 監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について：研究対象者のデータから氏名等の特定の個人を識別することができることとなる記述等を削り、代わりに新しく番号をつけて匿名化を行う。この番号を用い、データを提供する) <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	2014年6月末までにペグインターフェロン・リバビリン併用療法を行ったC型慢性肝疾患患者	
7. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科： <u>          </u> 内 科 担当者： <u>          </u> 尾下正秀 (職名) <u>          </u> 副院長・内科部長 連絡先：06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究	

	対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	---

研究番号 990号 承認日 2019年3月12日  
 研究実施予定期間 承認日～2023年11月30日

### 情報公開文書

1. 研究課題名	C型慢性肝疾患患者の予後に関する検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	C型慢性肝疾患患者においてインターフェロン・フリー治療により高率にウイルス排除が得られるようになり、その高い安全性も相まってインターフェロン・フリー治療の対象患者は大幅に広がった。しかしながら、併存疾患などのため抗ウイルス療法に使用される薬剤が適応外となる症例もあり、C型慢性肝疾患における残された課題となっている。一方、今後、非代償性肝硬変患者もインターフェロン・フリー治療の適応となり、本邦においてC型肝炎ウイルスを有する患者は減少することが予想されるが、現在、ウイルス排除が得られていない患者の実態については明らかではない。そこで本研究では、インターフェロン・フリー治療を受けられていない患者を対象にその実態を明らかにすることを目的とする。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント) について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> 不要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( )
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について：研究対象者のデータから氏名等の特定の個人を識別することができることとなる記述等を削り、代わりに新しく番号をつけて匿名化を行う。この番号を用い、データを提供する) <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	・インターフェロン・フリー治療を受けられていないC型肝炎患者	
7. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>          </u> 内 科 担当者： <u>          </u> 尾下正秀 (職名) 副院長・内科部長 連絡先：06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者	

	さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	--

## 情報公開文書

1. 研究課題名	ステロイド依存性・抵抗性の炎症性腸疾患に対する薬剤選択に関する多施設後ろ向き観察研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎もしくはクローン病)患者に対しては、免疫抑制剤や生物学的製剤などの新規薬剤の開発が進んでおり、選択肢の幅は広がっているものの、その選択基準は明確ではなく、患者背景や主治医の判断によるところが大きい。そこで本研究では炎症性腸疾患の患者において、後方視的にリアルワールドでの薬剤選択状況およびその治療成績を調査し、生物学的製剤を含む新規薬剤の治療効果と有効性に関わる背景因子を検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・内科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント(アセント)について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり(具体的な管理方法について: データ管理はデータ管理者のみがアクセスできるPCを用いて対応表のファイルにはパスワードを設定して保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 連絡先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: <u>          内          科          </u> 担当者: <u>(氏名) 柄川 悟志</u> <u>(職名) 部長</u> 連絡先: 06-6771-6051 本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

## 情報公開文書

1. 研究課題名	ステロイド依存性・抵抗性の炎症性腸疾患に対する薬剤選択に関する多施設前向き観察研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎もしくはクローン病)患者に対しては、免疫抑制剤や生物学的製剤などの新規薬剤の開発が進んでおり、選択肢の幅は広がっているものの、その選択基準は明確ではなく、患者背景や主治医の判断によるところが大きい。また、炎症性腸疾患の治療効果評価方法として、内視鏡検査による粘膜治癒の評価がゴールドスタンダードであるが、患者の負担も大きいことから、より低侵襲で有用なバイオマーカーが求められている。本研究では炎症性腸疾患の患者においてリアルワールドでの薬剤選択状況を前方視的に調査し、生物学的製剤を含む新規薬剤の治療効果と有効性に関わる背景因子を検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・消化器内科学・教授・大阪大学消化器内科学	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・内科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント(アセント)について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input checked="" type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 (中央モニタリング) ・監査実施者 (竹原徹郎・消化器内科学・教授・大阪大学消化器内科学) <input type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: データ管理はデータ管理者のみがアクセスできるPCを用いて対応表のファイルにはパスワードを設定して保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象及び 実施予定期間	大阪警察病院に通院中の炎症性腸疾患患者で、ステロイド依存性もしくは抵抗性のため(ステロイド投与困難のため、もしくはその他の理由で生物学的製剤を含む新規薬剤※の投与を開始する症例も含める)、生物学的製剤を含む新規薬剤※を開始する予定の患者。  ※本試験対象薬剤はプログラフ®、タクロリムス®、レミケード®、ヒュミラ®、シンポニー®、ステラーラ®、ゼルヤンツ®、エンタイビオ®(各薬剤のジェネリック/バイオシミラーを含む)とする。	
7. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院	

大阪市天王寺区北山町 10-31

診療科：            内 科

担当者： (氏名) 柄川 悟志            (職名) 部長

連絡先： 06-6771-6051

本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。



研究番号 868号 承認日 2018年5月7日  
 研究実施予定期間 承認日～2021年3月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	食道腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の治療後経過に関する多施設共同後ろ向き研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	食道腫瘍に対するESDは、従来法の内視鏡的粘膜切除術（EMR）では困難であった大きな病変に対しても一括切除が可能であり、2008年に保険収載されて以降、機器の改良やデバイスの開発とともに広く普及してきた。我々は、以前に、大阪大学およびその関連計11施設における食道ESDの治療成績を調査し、一般市中病院を含む多施設においても、食道ESDが安全に施行され、良好な治療成績が得られてきていることを示した。ESDによる一括切除は、詳細な病理組織診断とそれを根拠にした計画的で綿密なフォローを可能にした。しかし、現状では食道ESD後の追加治療やサーベイランスに関して、その長期成績をもとに検討した報告は少ない。そこで、本研究では、前回の研究で対象となったコホートの長期経過を追跡して、食道ESD後のフォローアップにおける問題点を明らかにするとともに追加治療の妥当性や適切なサーベイランスの方法について検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎・消化器内科学・教授・大阪大学大学院医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	柄川 悟志・内科・部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	〈介入について〉 <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究（観察研究）	〈インフォームド・コンセント（アセント）について〉 <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 <input type="checkbox"/> 新規（取得試料・情報の利用） <input checked="" type="checkbox"/> 既存（取得試料・情報の利用） <input type="checkbox"/> 既存（残余検体の利用） 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年（提供元の場合） <input type="checkbox"/> 5年（提供先の場合）	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> モニタリング実施者（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 監査実施者（ ） <input type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> あり （具体的な管理方法について：研究実施責任者である柄川がパスワードをかけた対応表を管理する。） <input type="checkbox"/> なし	
6. 連絡先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科：内 科 担当者：(氏名) 柄川 悟志 (職名) 部長 連絡先：06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者	

	さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	--

研究番号 861号 承認日 2018年5月7日

研究実施予定期間 承認日～

## 情報公開文書

1. 研究課題名	当院における肝硬変の成因別実態（学会発表）	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 （研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載）	当院における肝硬変の成因に関する、既存情報を用いて検討した。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input checked="" type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他（ ）
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究（観察研究）	<b>〈インフォームド・コンセント （アセント）について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規（取得試料・情報の利用） <input checked="" type="checkbox"/> 既存（取得試料・情報の利用） <input type="checkbox"/> 既存（残余検体の利用） 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年（提供元の場合） <input type="checkbox"/> 5年（提供先の場合）	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 （ ） ・監査実施者 （ ） <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり （具体的な管理方法について： ） <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>内 科</u> 担当者： <u>尾下正秀</u> （職名） <u>副院長・内科部長</u> 連絡先： 06-6771-6051  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 860号 承認日 2018年5月7日

研究実施予定期間 承認日～

## 情報公開文書

1. 研究課題名	市中病院である当院におけるアルコール性肝障害の現状 (学会発表)	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	当院におけるアルコール性による肝臓/肝硬変/その他の肝障害の現状 に関し、その臨床像(年齢、性別、診断契機、治療目的、通院実態な ど)に関して、既存情報を用いて検討した。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input checked="" type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント)について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: <u>          </u> 内 科 担当者: <u>          </u> 尾下正秀 <u>          </u> (職名) 副院長・内科部長 連絡先: 06-6771-6051  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 835号 承認日 2018年2月13日

研究実施予定期間 承認日～2022年3月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	アログリプチンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討 観察研究・期間延長 (SPEAD-A Extension Study) Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis -Extension study-	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	目的：現在、当院では2型糖尿病患者に対し、DPP-4阻害薬を投与しない通常治療群を対照とし、実臨床におけるDPP-4阻害薬（アログリプチン安息香酸塩）を用いた血糖降下療法が動脈硬化進展に及ぼす影響を評価するための研究（SPEAD-A）を実施しているが、研究期間を8年間延長することにより、実臨床においてDPP-4阻害薬（アログリプチン安息香酸塩）を用いた血糖降下療法がその後の予後、特に総死亡、急性心筋梗塞、脳梗塞等脳心血管イベントの発生に関しどのような影響を及ぼすかを長期的な観察のもと、検討を行う（Extension study）。 研究の種類：観察研究 品名：ネシーナ 一般名：アログリプチン安息香酸塩	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	綿田 裕孝・内科学・代謝内分泌学・教授・順天堂大学 下村 伊一郎・内分泌代謝内科・教授・大阪大学	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	安田 哲行・糖尿病・内分泌内科・部長	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年 (提供元の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について： ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科： <u>糖尿病・内分泌内科</u> 担当者： (氏名) <u>安田 哲行</u> (職名) <u>部長</u> 連絡先：06-6771-6051 本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象	

	としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	--

研究番号 834号 承認日 2018年2月13日

研究実施予定期間 承認日～2022年3月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	アログリプチンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討 観察研究・期間延長 (SPEAD-A Extension Study) Study of Preventive Effects of Alogliptin on Diabetic Atherosclerosis -Extension study-	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	目的：現在、当院では2型糖尿病患者に対し、DPP-4阻害薬を投与しない通常治療群を対照とし、実臨床におけるDPP-4阻害薬（アログリプチン安息香酸塩）を用いた血糖降下療法が動脈硬化進展に及ぼす影響を評価するための研究（SPEAD-A）を実施しているが、研究期間を8年間延長することにより、実臨床においてDPP-4阻害薬（アログリプチン安息香酸塩）を用いた血糖降下療法がその後の予後、特に総死亡、急性心筋梗塞、脳梗塞等脳心血管イベントの発生に関しどのような影響を及ぼすかを長期的な観察のもと、検討を行う（Extension study）。 研究の種類：観察研究 品名：ネシーナ 一般名：アログリプチン安息香酸塩	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	綿田 裕孝・内科学・代謝内分泌学・教授・順天堂大学 下村 伊一郎・内分泌代謝内科・教授・大阪大学	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	安田 哲行・糖尿病・内分泌内科・部長	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年 (提供元の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について： ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科： <u>糖尿病・内分泌内科</u> 担当者： (氏名) <u>安田 哲行</u> (職名) <u>部長</u> 連絡先：06-6771-6051 本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象	



	としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。
--	--

## 情報公開文書

1. 研究課題名	C型慢性肝疾患に対するインターフェロン・フリー治療の治療効果ならびに安全性についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	C型慢性肝疾患の抗ウイルス療法では、従来のインターフェロン治療に加えて、NS3/4プロテアーゼ阻害剤、NS5A阻害剤、NS5B阻害剤、およびリバビリンを組み合わせたインターフェロン・フリー治療が使用可能となった。インターフェロン治療と比して、インターフェロン・フリー治療では、高率なウイルス排除(著効)率が得られているが、それぞれの薬剤について、実際の治療効果ならびに安全性については確立されておらず、著効例、非著効例の臨床的特徴、ウイルス学的特徴についても未だ検討がなされていない。また、既存のインターフェロン・フリー治療で非著効となった症例に対するインターフェロン・フリー再治療の治療効果についても明らかではない。さらに長期的には、インターフェロン・フリー治療による発癌抑制効果や肝疾患進展抑止効果を含めた予後改善効果は明らかでない。したがって、多数例での検討により、インターフェロン・フリー治療の特徴を明らかにする必要がある。本研究では、インターフェロン・フリー治療を行うC型慢性肝疾患患者を対象とし、治療効果、安全性ならびに治療効果に關与する因子、耐性ウイルス変異出現状況、予後改善効果を明らかにすることを目的として、インターフェロン・フリー治療が施行される患者群の臨床経過を前向きに検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原徹郎・大阪大学大学院医学系研究科 消化器内科学・教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント(アセント)について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input checked="" type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: 外部に接続の無いパソコンにパスワードを付して保存し、個人情報の取扱には十分配慮を行う。) <input type="checkbox"/> なし	

6. 問合せ先	<p><b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b></p> <p>大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科：内科 担当者：(氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 連絡先：06-6771-6051</p> <p>※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>
---------	--

研究番号 754号 承認日 2017年8月9日  
研究実施予定期間 承認日～2024年8月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	慢性膵炎による難治性疼痛に対する内科的インターベンション治療と外科治療の比較解析 -多施設共同前向き実態調査	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	本邦における慢性膵炎の疼痛対策としての内科的インターベンション治療と外科治療の実態調査を行い、慢性膵炎に対する両治療法の適応・位置づけを明らかにすることを目的とする多施設共同前向き観察研究	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	乾和郎 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 消化器内科 教授	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下正秀 副院長・内科部長・大阪警察病院	
5. 研究の分類	<b>&lt;侵襲性について&gt;</b> <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>&lt;共同研究の有無について&gt;</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>&lt;介入について&gt;</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<b>&lt;インフォームド・コンセント (アセント) について&gt;</b> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>&lt;試料・情報の利用について&gt;</b> <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<b>&lt;モニタリングと監査について&gt;</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>&lt;対応表の作成の有無について&gt;</b> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について：研究責任医師および分担医師は、患者データの登録の際は、施設毎に被験者識別コードを付して被験者を特定できる情報を含まないようにする。各施設で登録されたデータは電子媒体でデータ管理責任者が外部に接続の無いパソコンにパスワードを付して管理する) <input type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象	慢性膵炎の疼痛対策としての内科的インターベンション治療と外科治療をうけられた方	
7. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科： <u>          内  科          </u> 担当者： <u>          尾下正秀          </u> (職名) 副院長・内科部長 連絡先： 06-6771-6051  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 750号 承認日 2017年8月9日  
 研究実施予定期間 承認日～2021年9月30日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	高齢患者の増加をみるアルコール性肝癌の年齢別の臨床像	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場 合には品名と一般名も記載)	肝癌において、非B非C肝癌は増加し、半数はアルコールが原因である。アルコール性肝癌、特に高齢(診断時年齢80歳以上)患者の臨床像を検討した。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長・内科部長	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長・内科部長	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input checked="" type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント)について> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法について: ) <input checked="" type="checkbox"/> なし	
6. 研究の対象	1997-2016年に当院で加療した肝癌患者1462名	
7. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科: <u>内 科</u> 担当者: <u>尾下正秀</u> (職名) <u>副院長・内科部長</u> 連絡先: 06-6771-6051  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

研究番号 703号 承認日 2017年3月16日

研究実施予定期間 承認日～2021年9月30日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある 場合には品名と一般名も記 載)	糖尿病外来における肝細胞癌の実態を調査し、糖尿病外来における肝細胞癌の高危険群の確立を目的とする既存情報のみを用いた多施設共同研究である。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	小池 和彦 消化器内科 教授 東京大学医部附属病院	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	<b>〈侵襲性について〉</b> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<b>〈共同研究の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<b>〈介入について〉</b> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<b>〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 <input checked="" type="checkbox"/> オプトアウト
	<b>〈試料・情報の利用について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<b>〈モニタリングと監査について〉</b> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<b>〈対応表の作成の有無について〉</b> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法: 研究責任者がパスワードを設定した USB メモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科: 内科 担当者: (氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 (部長) 連絡先: 06-6771-6051  ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

## 情報公開文書

1. 研究課題名	Genotype1型C型慢性肝疾患に対するエルバスビル・グラゾプレビル併用療法の治療効果ならびに安全性についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	Genotype1型C型慢性肝疾患の抗ウイルス療法では、NS3/4プロテアーゼ阻害剤・ペグインターフェロン・リバビリン療法、アスナプレビル・ダクラタスビル療法、レジパスビル・ソホスビル療法に加えて、エルバスビル・グラゾプレビル療法が使用可能となった。エルバスビル・グラゾプレビル療法は、HCVの増殖に必須であるNS5AとNS3/4Aプロテアーゼを阻害する経口HCV選択的抗ウイルス剤の併用療法で、耐性変異や腎機能障害の有無に関わらず使用可能である。しかし、エルバスビル・グラゾプレビル療法の治療効果ならびに安全性については確立されておらず、著効例、非著効例の臨床的特徴、ウイルス学的特徴についても未だ検討がなされていない。さらに、エルバスビル・グラゾプレビル療法の発癌抑制効果は明らかでない。したがって、多数例での検討により、エルバスビル・グラゾプレビル療法非著効例や、同療法治療後発癌例の特徴を明らかにする必要がある。本研究では、エルバスビル・グラゾプレビル療法を行うC型慢性肝疾患患者を対象とし、同療法の治療効果、安全性ならびに治療効果に関する因子、耐性ウイルス変異出現状況、肝発癌抑制効果を明らかにすることを目的として、同療法が施行される患者群の治療経過、治療効果、発癌状況などを前向きに検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎 消化器内科学 教授 大阪大学大学院医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント) について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法: 研究責任者がパスワードを設定したUSBメモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】	



大阪警察病院

大阪市天王寺区北山町 10-31

診療科：内科

担当者：(氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 (部長)

連絡先：06-6771-6051

※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

## 情報公開文書

1. 研究課題名	無症候性自己免疫性膵炎における膵内・外分泌機能の臨床経過の解明を目的とした多施設前向き観察研究	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	自己免疫性膵炎(以下、AIP)は、ステロイド治療に良好に反応し、びまん性膵腫大や膵管の不整な狭細像を特徴とする膵の炎症性疾患である。膵での炎症が持続することにより膵腺房細胞やランゲルハンス島に影響を及ぼし、膵内・外分泌機能が低下し、最終的には慢性膵炎へと移行すると考えられている。しかし、AIPにおいて、膵内・外分泌機能の経時的な変化について前向きに検討した報告はない。今回我々は、無症候性AIP症例の膵内・外分泌機能を経時的に評価し、膵機能面から見たAIPの臨床経過のついて明らかにすることを目的とする。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎 消化器内科学 教授 大阪大学大学院医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント(アセント)について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input checked="" type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり(具体的な管理方法:研究責任者がパスワードを設定したUSBメモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	<b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b> 大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町10-31 診療科:内科 担当者:(氏名)尾下 正秀 (職名)副院長(部長) 連絡先:06-6771-6051 ※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。	

## 情報公開文書

1. 研究課題名	無症候性自己免疫性膵炎に対する少量ステロイド投与の膵機能面から見た有用性の検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	<p>自己免疫性膵炎（以下、AIP）は、ステロイド治療に良好に反応し、画像診断上、びまん性膵腫大や膵管の不整な狭細像を特徴とする膵の炎症性疾患である。本邦では 2013 年に日本膵臓学会より AIP 診療ガイドラインが作成され、一般的なステロイド初期投与量や治療期間、治療導入後の寛解率やステロイド減量・中止に伴う再燃率などが示されている。しかし、ステロイド早期治療介入が膵機能、膵石・癌の発生など長期予後にどのような影響を与えるかは未だ明らかとはなっていない。</p> <p>実臨床においてステロイド治療は AIP 患者全例に行われているのではなく、症状を伴わない AIP 症例は経過観察となることが少なくない。しかし、多くの症例で診断時にすでに膵機能低下が認められることやステロイド治療を行わずに経過観察した症例では経時的に膵機能が低下することも報告されている。一方で、ステロイド治療による膵機能が改善することも報告されており、早期のステロイド介入により慢性炎症に伴う膵機能低下の予防および膵予後の改善が期待される。</p> <p>今回我々は、臨床症状を伴わない AIP 症例に対して少量ステロイド投与を行い、膵機能検査値の変化や治療導入による寛解率などを前向きに検討し、早期ステロイド投与の有用性について明らかにすることを目的とする。</p>	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎 消化器内科学 教授 大阪大学大学院 医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	<介入について> <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	<インフォームド・コンセント (アセント) について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input checked="" type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 (当院の共同研究者 ) ・監査実施者 (実施しない ) <input type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法: 研究責任者がパスワードを設定した USB メモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	

6. 問合せ先	<p><b>【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】</b></p> <p>大阪警察病院 大阪市天王寺区北山町 10-31 診療科：内科 担当者：(氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 (部長) 連絡先：06-6771-6051</p> <p>※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p>
---------	--

## 情報公開文書

1. 研究課題名	Genotype1型C型慢性肝疾患に対するレジパスビル・ソホスブビル療法の治療効果ならびに安全性についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	Genotype1型C型慢性肝疾患の抗ウイルス療法では、NS3/4プロテアーゼ阻害剤・ペグインターフェロン・リバビリン療法、アスナプレビル・ダクラタスビル療法に加えて、レジパスビル・ソホスブビル療法が使用可能となった。レジパスビル・ソホスブビル療法は、HCVの増殖に必須であるNS5AとNS5Bポリメラーゼを阻害する経口HCV選択的抗ウイルス剤の併用療法で、前治療歴やインターフェロンへの忍容性に関わらず使用可能である。しかし、レジパスビル・ソホスブビル療法の治療効果ならびに安全性については確立されておらず、著効例、非著効例の臨床的特徴、ウイルス学的特徴についても未だ検討がなされていない。さらに、レジパスビル・ソホスブビル療法の発癌抑制効果は明らかでない。したがって、多数例での検討により、レジパスビル・ソホスブビル療法非著効例や、同療法治療後発癌例の特徴を明らかにする必要がある。本研究では、レジパスビル・ソホスブビル療法を行うC型慢性肝疾患患者を対象とし、同療法の治療効果、安全性ならびに治療効果に関与する因子、耐性ウイルス変異出現状況、肝発癌抑制効果を明らかにすることを目的として、同療法が施行される患者群の治療経過、治療効果、発癌状況などを前向きに検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎 消化器内科学 教授 大阪大学医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	<侵襲性について> <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	<共同研究の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他( )
	<介入について> <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究(観察研究)	<インフォームド・コンセント(アセント)について> <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	<試料・情報の利用について> <input checked="" type="checkbox"/> 新規(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存(残余検体の利用) 【保存年数】 <input checked="" type="checkbox"/> 3年(提供元の場合) <input type="checkbox"/> 5年(提供先の場合)	<モニタリングと監査について> <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	<対応表の作成の有無について> <input checked="" type="checkbox"/> あり(具体的な管理方法:研究責任者がパスワードを設定したUSBメモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院	

大阪市天王寺区北山町 10-31

診療科：内科

担当者：(氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 (部長)

連絡先：06-6771-6051

※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究番号 499号 承認日 2015年6月1日  
 研究実施予定期間 承認日～2020年12月31日

## 情報公開文書

1. 研究課題名	Genotype2型C型慢性肝疾患に対するソホスブビル・リバビリン療法の治療効果ならびに安全性についての検討	
2. 研究の目的及び 実施計画の概要 (研究に薬品や機器がある場合には品名と一般名も記載)	Genotype2型C型慢性肝疾患の抗ウイルス療法では、ペグインターフェロン・リバビリン療法、テラプレビル・ペグインターフェロン・リバビリン療法に加えて、ソホスブビル・リバビリン療法が使用可能となった。ソホスブビル・リバビリン療法は、HCVの増殖に必須であるNS5Bポリメラーゼを阻害する経口HCV選択的抗ウイルス剤とリバビリンの併用療法で、前治療歴やインターフェロンへの忍容性に関わらず使用可能である。しかし、ソホスブビル・リバビリン療法の治療効果ならびに安全性については確立されておらず、著効例、非著効例の臨床的特徴、ウイルス学的特徴についても未だ検討がなされていない。さらに、ソホスブビル・リバビリン療法の発癌抑制効果は明らかでない。したがって、多数例での検討により、ソホスブビル・リバビリン療法非著効例や、同療法治療後発癌例の特徴を明らかにする必要がある。本研究では、ソホスブビル・リバビリン療法を行うC型慢性肝疾患患者を対象とし、同療法の治療効果、安全性ならびに治療効果に関する因子、耐性ウイルス変異出現状況、肝発癌抑制効果を明らかにすることを目的として、同療法が施行される患者群の治療経過、治療効果、発癌状況などを前向きに検討する。	
3. 研究責任者 氏名・所属・職・所属機関	竹原 徹郎 消化器内科学 教授 大阪大学医学系研究科	
4. 研究実施責任者 氏名・所属・職・所属機関	尾下 正秀 副院長 (内科 部長) 大阪警察病院	
5. 研究の分類	〈侵襲性について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 軽微な侵襲を伴う研究 <input type="checkbox"/> 侵襲を伴わない研究	〈共同研究の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究 <input type="checkbox"/> 当院のみの研究 <input type="checkbox"/> その他 ( )
	〈介入について〉 <input type="checkbox"/> 介入を伴う研究 <input checked="" type="checkbox"/> 介入を伴わない研究 (観察研究)	〈インフォームド・コンセント (アセント) について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> オプトアウト
	〈試料・情報の利用について〉 <input checked="" type="checkbox"/> 新規 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (取得試料・情報の利用) <input type="checkbox"/> 既存 (残余検体の利用) 【保存年数】 <input type="checkbox"/> 3年 (提供元の場合) <input checked="" type="checkbox"/> 5年 (提供先の場合)	〈モニタリングと監査について〉 <input type="checkbox"/> 必要 ・モニタリング実施者 ( ) ・監査実施者 ( ) <input checked="" type="checkbox"/> 不要
	〈対応表の作成の有無について〉 <input checked="" type="checkbox"/> あり (具体的な管理方法: 研究責任者がパスワードを設定したUSBメモリーに記録保存し、鍵の掛かるキャビネットに保管する。) <input type="checkbox"/> なし	
6. 問合せ先	【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】 大阪警察病院	

大阪市天王寺区北山町 10-31

診療科：内科

担当者：(氏名) 尾下 正秀 (職名) 副院長 (部長)

連絡先：06-6771-6051

※本研究に関するご質問等がありましたら上記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないのでお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。